

2014年度「研究部会活動記録」

現代政治経済研究所

部会主任名	土屋礼子	研究部会名	問題解決型プロジェクト
研究課題：戦後日本の科学ジャーナリズムの経験知			
月/日	活 動 記 録		
4月	インタビュー調査報告書の協力者及び関係者への配布及び郵送。		
4～7月	科学ジャーナリズムに関する内容分析を、土屋ゼミで行う。 テーマとしては、「日本におけるノーベル賞報道」「認知症の語られ方」「遺伝子組み換え食品についての新聞報道の日米英の比較」などを設定し、主に新聞記事の内容分析を試みて、議論と調査を重ねた。		
8～9月	シンポジウムにむけて、分析結果をまとめ、発表を準備した。		
9月10日	中国北京の中国伝媒大学において、シンポジウム「日本の科学ジャーナリズム史を考える」を開催し、中国の学生たちと議論し交流した。プログラムは、以下のとおり。 1) 「「戦後日本の科学ジャーナリズム」の聞き取り調査について」 土屋礼子、通訳：曲揚・黎丹 2) 内容分析に基づく戦後日本の科学ジャーナリズムの考察 ① 「日本人科学者のノーベル賞受賞についての新聞報道」小俣智史、通訳：郭誠 ② 「遺伝子組み換え食品報道の日・米・英比較」鶴川真衣、通訳：黎丹 ③ 「認知症に対する認識と報道の変化」山田友明、通訳：郭誠 3) 質疑応答・ディスカッション、通訳：郭誠、黎丹		
2015年	早稲田大学早稲田キャンパス26号館において、日本科学技術ジャーナリスト会議共催・ワークショップ「戦後日本の科学ジャーナリズムを考える」を開催した。		
1月13日	ワークショップのプログラムの第一部は、学生の報告に対し、瀬川至朗氏、田中幹人氏がコメントした。第二部は、土屋礼子「日本の科学ジャーナリズム史と新聞社の科学部～聞き取り調査をもとにして～」の報告、それに続いて、武部俊一氏（日本科学技術ジャーナリスト会議・理事）が討論者として議論を展開した。		
3月7日	上海復旦大学での日中三大学合同シンポジウムに、瀬川、土屋、田中の三名が出席。デジタルジャーナリズムにおける科学報道などについて論じた。		
来年度の活動計画	なし		
終了の場合	研究成果刊行の時期： ①2014年3月（刊行済み）および②2015年4月（刊行済み） 研究成果の公開方法： ①『ジャーナリスト・メディア関係者個人史聞き取り調査報告書 第四回調査報告書 および現代政治経済研究所2013年度問題解決型プロジェクト「戦後日本の科学ジャーナリズムの経験知」調査報告書』（政治経済学部 土屋礼子研究室）、および②関屋直也・瀬川至朗編著『メディアは環境問題をどう伝えてきたのか』（ミネルヴァ書房）の刊行。		